

令和5年度 学校評価

自己評価の指標（肯定的割合） A：80%以上（満足できる） B：60～79%（もう少し） C：50～59%（改善が望ましい） D：49%以下（改善が必要）

質問番号	質問内容	各分掌、各学年部による振り返り	自己評価	学校関係者評価（学校運営協議会委員による評価）		令和5年度			令和4年度		
				総合評価	コメント	生徒	保護者	教員	生徒	保護者	教員
1	ホームページやclassi配信などは、本校の状況を知るための適切な発信であったと思いますか。	・全体的に高いポイントを維持した。今年度もclassi配信を活用して、生徒・保護者ともに必要な連絡等を迅速に発信できたためと考えられる。	A	A	・休校の連絡が遅い事がある。早めの連絡が必要。 ・保護者の評価も高く良い。 ・生徒と教員の数値が昨年度より良くなってはいるが、保護者の数値が下がっている。この理由が何か気になる。内容によってはさらなる改善につながるため、引き続き注視が必要。						
2	学校は、PTAや卒業生会、地域などと連携して学校行事等の教育活動をよりよく実施できたと思いますか。	・保護者のポイントが上昇した。コロナ禍を経て、学園祭などの保護者が参加できる学校行事が増えたためと考えられる。	A	A	・以前のように活動が出来るようになって良かった。						
3	一人一台端末を含むICT機器の活用は、生徒の学習にとって効果的なものであったと思いますか。	・全体的にポイントが上昇し、改善された。授業において、クラスルームやチャットなどのGoogleアプリの利用が進んだ結果と考えられる。	A	A	・生徒と保護者の評価は昨年度より上がってはいるものの、教員の評価に比べて開きがあるのが気になる。						
4	本校が伸ばしたい資質・能力を意識した授業や教科横断的な授業が実践されるなど、組織的に授業改善が図られたと思いますか。	・生徒と教員のポイントが上昇した。伸ばしたい資質・能力を意識させる取り組みができたことに加え、教科横断的な授業（例えば政治・経済の消費者問題の単元で商業科と家庭科の先生も加わる）が複数回実施されたことも影響したと考えられる。	A	A	・「生徒と保護者」と「教員」の評価に開きがあるのが気になる。 ・【質問1】と同様に保護者の数値が下がっているため、注視が必要。						
5	自治的な寮運営実現のための支援や定期的な面談などを通じて、安心・安全に寮生活ができる環境整備ができたと思いますか。	・昨年に比べ生徒・保護者の数値が下降している。保健環境部では定期的な面談を実施し状況把握を行った。また、収納スペース、食事の量や質、故障個所の整備等、安心・安全に生活できる環境整備が不十分であった。 ・担任は学期に2回以上の面談を実施しているが、寮状況の把握が不足した。より生徒の思いに寄り添う話し合いの支援が必要であると感じる。	C	C	・R4年度と比較して、どのような工夫がなされたか。 ・食事や環境面、体調不良時の対応について、要検討。 ・協議会でも話題に上がったように今後も寮の動向には関わる必要がある。 ・予算的な問題等、簡単にいかない部分もあると思うが、出来るところから改善して欲しい。						
6	健康観察や保健だよりなどを通じて、生徒が心身ともに健康な状態で学校生活を送るための適切な支援ができたと思いますか。	・学年が上がるにつれて、肯定的な意見の割合が増えていた。継続した支援の成果と大切さが生徒に伝わっていると捉える。 ・今年度途中から欠席連絡や健康観察などにICTを導入した。	B	B	・感染症流行時など体調不良者が多く保健室が利用できない時の対策が必要。 ・支援が来ている「教員」に比べて、生徒と保護者は満足出来ていない。昨年度より大幅に評価も下がっている。ICT導入で変化があれば良いが、双方で乖離がないよう注意が必要。						
7	いじめアンケートの実施や生徒と教職員の対話の機会の創出などを通じて、生徒が安心・安全に生活するための適切な支援な支援ができたと思いますか。	・生徒と保護者のポイントが下降した。人間関係のトラブルが発生したことも要因のひとつと思われる。 ・生徒との話し合いの機会については、携帯電話の使用規程作成の際にも多くの機会もあった。	A	B	・評価結果は悪くない。今後も安心安全に学校生活を送れるよう適切な支援をしっかりとお願いしたい。 ・話し合いの機会がもたれていたとしても、実際には生徒と保護者の数値は下がっている。現状に満足せず引き続き注意が必要である。						
8	部活動と地域活動の両立を支援する環境が整い、生徒が自主的・協働的に隠岐島前地域で活動することができたと思いますか。	・全体的にポイントが上昇し、改善された。昨年度いただいたご意見に基づき、重点目標として掲げて、様々な場面で部活動と地域活動の両立について説明した結果と考えられる。	A	A	・今年度はバスケットボール部の躍進があった。 ・部の活動として地域活動に参加する機会があっても良い。 ・教員の評価が昨年度より大幅に上がっているのが良かった。						
9	面談や学年通信、キャリアプランシートの活用などを通じて、生徒及び保護者が必要とする情報が提供されていたと思いますか。	・保護者からの評価値は昨年度と同様7割となっている。保護者向けの説明会をオンラインで行った後に、それをいつでも見ることができるアーカイブ視聴を検討したい。 ・学年通信をペアで作成するなどの工夫を行い、定期的な情報発信に努めたい。 ・学校からの電話連絡をネガティブに取られないために、良かったことについても保護者に伝えていく「ほめほめコール」を実施していきたい。	B	B	・教員と保護者の評価差が気になる。 ・保護者の必要とされる情報が提供されているのか。 ・保護者の評価が低い理由はネガティブな電話連絡によるのか。また、「ほめほめコール」は必要なのか。 ・ぜひ改善策を実施して、さらなる改善に繋げて欲しい。						
10	夢探究をはじめとした本校の3年間の探究学習プログラムは、本校が目指すグローバル人材育成に資するものであると思いますか。	・生徒と保護者からも非常に高く評価された。グローバル人材の育成を標榜する我が校はさらなる高みを目指していく必要がある。そのためには、原点に立ち返り、グローバルとローカルの本校独自の定義を全員が再共有する必要があると考える。 ・地域共創実践の現場でのリアルな体験や教科科目横断的なゼミの実施など、会議で綿密に打ち合わせをして実施できた成果だと考えられる。	A	A	評価も高く、良い。						